

## 平成28年度 清瀬市立清瀬中学校 学校評価計画表

<b>学校教育目標</b>		人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、 ・正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒を育てる ・健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる ・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる			
<b>目指す学校像(ビジョン)</b>		<b>【目指す学校像】</b> 伝統を受け継ぎ、安全で地域・保護者から信頼を寄せられる学校 <b>【目指す児童・生徒像】</b> 自らよく学び、よく考え、互いに支え合い認め合える豊かな心と強い意志をもち、国際的視野に立てる生徒 <b>【目指す教師像】</b> 生徒のよさや可能性を引き出し、教職員が互いに磨き合い、協力し合える組織をつくり、公務員としての自覚有る行動のとれる教職員			
<b>前年度までの学校経営上の成果と課題</b>		学力の向上とインクルーシブ教育の推進に特に重点を置いて学校運営を行った。本校は平成25年度より2年間の学力向上推進モデル校に指定されて以来、5教科において毎授業もしくは単元ごとに復習確認テストを行い、基礎的基本的知識・技能の定着を図っている。各種学力向上調査に成果が出ている。インクルーシブ教育の推進を目指した交流・共同学習については、昨年度校内にインクルーシブ教育推進委員会を設置し、本校独自の先進的な取り組みを行ってきた。また、生徒が自ら考えて行動できる、判断力の育成を図った生活指導を実践している。課題としては、特別支援学級と通常学級との交流・共同学習を質量ともに向上させることが挙げられる。			
柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力目標(評価基準)	成果目標(評価基準)
<b>確かな学力の向上</b>	学習評価において、観点別評価のaの割合を増やす。	各種学力向上調査において、全ての教科で東京都平均を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で復習テストを定期的実施。</li> <li>・授業規律を確立するための授業運営ルールを、全教職員が徹底する。</li> <li>・定期考査前や長期休業中に補習授業を行う。</li> </ul>	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 学力調査で都平均を全科目でA・B共に上回る
				3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 学力調査で都平均を過半数の教科でA・B平均において上回る
				2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 学力調査で都平均を過半数の教科でA・B平均において下回る
				1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 学力調査で都平均を全ての教科で下回る
	全教科(通常学級・特別支援学級ともに)で指導方法の工夫改善をより一層推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を、有効に活用する。</li> <li>・清瀬市教育研究会や各種研修会を積極的に活用する。</li> </ul>	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 生徒の評価で肯定的回答80%以上	
			3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 生徒の評価で肯定的回答60%以上80%未満	
			2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 生徒の評価で肯定的回答40%以上60%未満	
			1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 生徒の評価で肯定的回答40%未満	
<b>豊かな人間性の涵養</b>	生命を尊重する精神をもち、いじめや暴力行為がなく思いやりのある生徒を育成する。	命を大切にする生徒、いじめをしない、させない生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命の教育を全学年で行う。</li> <li>・ふれあいアンケートの毎学期実施。</li> <li>・休み時間には学年担当教職員が学年フロアに待機し、生徒に寄り添う「廊下職員室」を実践する。</li> </ul>	4 問題行動調査で1年間のいじめ・暴力件数が10件未満	4 生徒の評価で肯定的回答80%以上
				3 問題行動調査で1年間のいじめ・暴力件数が10件～15件	3 生徒の評価で肯定的回答60%以上80%未満
				2 問題行動調査で1年間のいじめ・暴力件数が16件～20件	2 生徒の評価で肯定的回答40%以上60%未満
				1 問題行動調査で1年間のいじめ・暴力件数が21件以上	1 生徒の評価で肯定的回答40%未満
	生徒に自尊感情と自己肯定感を身に付けさせる。	互いに認め合う生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼で部活動、資格取得試験、各種コンクール等での活躍を顕彰する。</li> <li>・学校便りや学年便り等において生徒の活躍を紹介し、校長室前の顕彰コーナーに掲示する。</li> </ul>	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 生徒の評価で肯定的回答80%以上
				3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 生徒の評価で肯定的回答60%以上80%未満
				2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 生徒の評価で肯定的回答40%以上60%未満
				1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 生徒の評価で肯定的回答40%未満
<b>健やかな体の育成</b>	体力の向上を図る。	体力テストにおいて、全項目で都平均を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業開始前からランニングを行うか、筋肉トレーニングを行うかとする。</li> <li>・説明を効率的に行うことにより運動の時間をより多く確保する。</li> <li>・ハンドボール投げを授業で訓練する。</li> </ul>	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 体力テストの全種目で都平均を上回る
				3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 体力テストの1種目で都平均を下回る
				2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 体力テストの2種目で都平均を下回る
				1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 体力テストの3種目で都平均を下回る
	食育を推進し食生活の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の残菜量を減らすため、配膳の工夫によって食べる時間を確保する。</li> <li>・生徒による完食推進キャンペーンを行う。</li> <li>・朝食を摂る指導を行う。</li> </ul>	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 生徒の朝食摂取率95%以上	
			3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 生徒の朝食摂取率90%以上95%未満	
			2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 生徒の朝食摂取率85%以上90%未満	
			1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 生徒の朝食摂取率85%未満	
<b>本校の特色①</b>	国際理解教育を推進し、国際的視野をもつ生徒を育成する。	3年間を見通した意図的計画的な国際理解教育を実践し、生徒に日本理解を深めさせるとともに、国際社会への興味・関心を抱かせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次にユニセフ出前授業を実施。</li> <li>・2年次に『留学生が先生』プロジェクトを利用した交流授業を実施。</li> <li>・3年次に、JICAによる出前授業と、修学旅行時の英語インタビューを行う。</li> </ul>	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 生徒の意識の向上が85%以上
				3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 生徒の意識の向上が80%以上85%未満
				2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 生徒の意識の向上が75%以上80%未満
				1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 生徒の意識の向上が70%以上75%未満
	特別支援教育を充実させ、インクルーシブ教育システムの構築を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の有無に関わらず、公正・公平な態度で共に生活できる生徒を育成する。</li> <li>・交流、共同学習を進んで行う生徒を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内インクルーシブ教育推進委員会を定期的に開催する。</li> <li>・特別支援学級と通常学級との交流・共同学習を授業、行事、部活動、給食等において行う。</li> </ul>	4 教職員の取り組み評価で、肯定的回答80%以上	4 生徒の意識の向上が85%以上
				3 教職員の取り組み評価で、肯定的回答60%以上80%未満	3 生徒の意識の向上が80%以上85%未満
				2 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%以上60%未満	2 生徒の意識の向上が75%以上80%未満
				1 教職員の取り組み評価で、肯定的回答40%未満	1 生徒の意識の向上が70%以上75%未満
<b>本校の特色②</b>	進路選択を自らの力でできる生徒を育成する。	卒業後の進路を、年度内に決定することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間で計画的に職業調べ、職場体験、上級学校調べ等を行う。</li> <li>・調べ学習や発表活動等を通して、進んで進路学習に取り組む指導を行う。</li> <li>・外部人材を活用する。</li> </ul>	4 全学年で、外部人材を活用	4 生徒の評価で肯定的回答80%以上
				3 3分の2以上の学年で、外部人材を活用	3 生徒の評価で肯定的回答60%以上80%未満
				2 3分の1以上の学年で、外部人材を活用	2 生徒の評価で肯定的回答40%以上60%未満
				1 外部人材の活用が未実施	1 生徒の評価で肯定的回答40%未満
	保護者・地域との広く深い連携による、地域に根ざした学校をつくる。	生徒・教師・保護者・地域社会との交流活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの積極的な更新。</li> <li>・学校便りの地域への配布。</li> <li>・学校行事や授業公開等の事前案内。</li> <li>・地域活動へ生徒・教員が参加。</li> <li>・1組職場体験先を地域が斡旋。</li> </ul>	4 学校便り増刊号発行、HP更新合計48回以上	4 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均50名以上
				3 学校便り増刊号発行、HP更新合計36～47回	3 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均40名以上
				2 学校便り増刊号発行、HP更新合計24～35回	2 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均21名以上
				1 学校便り増刊号発行、HP更新合計23回未満	1 公開講座等への地域保護者の参加数1回平均20名以下